

授業科目名	【G】	プレゼミⅡ	区分		開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
	【H】	プレゼミⅡ	必修			【H】1		【H】2	
科目区分	専門科目								
授業形態	対面授業								
担当形態	単 独								
施行規則に定める科目区分又は事項等									
サブタイトル	土台作りとしての法学入門					担当者	伊禮 誠汰		
授業概要	【概要】	法律学の学習で身に着ける(べき) 知識や能力には、法律学の専門知識とそれを扱う能力だけでなく、到達目標に示すような汎用性のある能力も含まれる。 本プレゼミは、汎用性のある能力を養うことで、今後法律学の専門知識を学ぶための土台作りをすることを目的とする。							
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・法学、法律学で用いられる思考様式の基礎を身につける。 ・必要な情報を探す能力を身につける。 ・批判的に考える能力を身につける。 ・説得的に表現する能力を身につける。 							
履修条件	特になし								
アクティブラーニングの方法	【○】	事前学習型	【-】	反転授業	【○】	調査学習	【-】	フィールドワーク	
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ	
	【○】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他	
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	◎ (よく当てはまる)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)							
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)							
他科目との関連性	特になし								
教科書	特になし								
参考書	適宜授業中に指示する。								
評価方法	発表・課題提出55%、積極的な発言(コメント)などの授業貢献45%で評価する。								
フィードバック方法	提出した課題にコメントをし、フィードバックを行う。								
評価基準	授業参加・課題提出を規定回数おこない、さらに個別報告をおこなった者を「B」または「C」、上記に加え、ディスカッションで積極的に発言し授業に貢献した者を「A」または「S」、授業参加・課題の提出が充分とは言えないものを「D」もしくは「E」として評価する。授業参加回数(課題の未提出含む)が著しく少ないなど評価不能の場合はFとする。								

授 業 科目名	【G】	プレゼミⅡ	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】	プレゼミⅡ	必 修		【H】1		【H】2
授業内容	<p>【第1回】ガイダンス、シラバス確認シートの作成</p> <p>【第2回】～【第4回】「調べる」 文献の調査方法や、図書館の利用方法を概観する。</p> <p>【第5回】～【第8回】「読む」 条文の読み方、判例の読み方、基本書の読み方などを概観する。</p> <p>【第9回】～【第10回】「書く」 文献を引用する方法などを概観する。</p> <p>【第11回】～【第14回】個別報告 個別報告では、個々の参加者が、これまでの講義で学んだことをもとに、任意のトピックを選択し、当該トピックについての資料を収集・分析したうえで、報告を行うこととする。その後、参加者全体で質疑応答や報告の形式について検討する。 担当時間についてはおおよそ30分を目安とするが、受講者数によって適宜変更する。</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※その他、複数回簡単な課題を与えることを予定している。</p>						
予習内容	<p>ディスカッションであつかうトピックについての最低限の情報を事前に調べること。 授業ごとの予習時間は120分程度を目安とする。</p>						
復習内容	<p>本プレゼミで学んだことを意識しつつ、他の講義を受講するとよい。 授業ごとの復習時間は120分程度を目安とする。</p>						
その他	<p>正当な理由の無い遅刻、途中入退室は認めない。 私語、携帯電話の使用は禁止とする。その他授業態度が著しく悪い者は退出を命じ、単位不認定とする。</p>						